

音楽三田会

〒105 東京都港区西新橋1-10-8
第2森ビル ミリオンコンサ
ート内 音楽三田会事務局
TEL 3501-5638
印刷 啓文堂

「音楽三田会」の九年半

寺西 春雄

一九八三年二月十二日、当時日比谷の三信ビルに仮住まいをしていた東京三田倶楽部で開かれた創立総会から数えて、やがて九年半、「音楽三田会」も今までのところ、まず順調な歩みをみせているといえるだろう。設立段階で百五十名に満たなかった会員数も、いまや二百五十名近くに増え、年二回の定例懇親会（定期の総会をこう呼んでいる）への出席も、大雪にたたられた第二回（一九八四年一月二十一日）の二十数名は例外、毎回三十名以上多いとき

は四十名をこえる）に及ぶ状況で、この種の会としては、きわめて安定した数字を示している。

第一回定例懇親会（一九八三年七月十六日）からは、会場が本来の帝國ホテル内の東京三田倶楽部に定着

されることになったが、第七回（一九八六年七月十二日）以降、奇数回つまり夏（七月）の懇親会は、毎回隅田川、東京湾の屋形船による回遊会食の会というかたちをとり、好評をいただいている。しかしその趣向も今夏で七回目、来年あたりから少し違ったところみができるか、という声もきこえてくる。会員諸兄弟から、思い切ったご提案がいただければ、と積極的な会運営へのご参加を期待、お願いしたい。毎月第一月曜に東京三田倶楽部で、午後七時ころから定期的に幹事会を開いている。幹事会とはいうものの、なごやかな

雑談（話題は、スポーツから文化、政治、社会、経済等々、音楽のテーマは意外に少ない）が中心、会員各位のご出席を大いに歓迎したい。そういういった場で、会のいとなみについて、気軽にご発言下さるとうれしい。会のいとなみについて、という文言がでてきたので、ここでお願い申し上げます。別項では事務局からご報告とお願いがあるはずだが、本会は会員の入金のみで、一切会費もありません。総会その他の運営は出席者に実費をお払いいただくかたちでまかなっていくシステムをとっている。会合の経費は一応それでまかなえるが、こうして皆さまにお送りする印刷物（会合通知、会報、名簿等々）の印刷費、その郵送費（返信用葉書も含む）など、経常費としてそれ相当の出費がさげられない。すでに十年近く経過したいま、別項数字にみるような赤字が計上されてきているが、それを事務局担当小尾旭君が立て替えて下さった有様、本来なら事務局費を差し上げなければならぬのに、そのよ

うな負担までおかけしていることは、まさに順調な歩みと申し上げたが、経済的には不健全という他はあるまい。そこで事務局からの報告及びお願いにあるように、ぜひ会員の皆さまのご理解のもと、応分のご協力を切にお願い申し上げます。

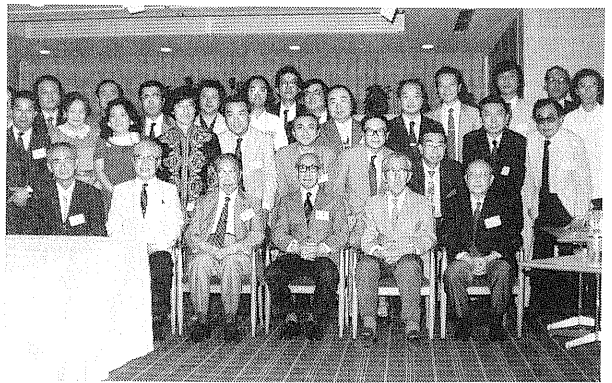
会員諸兄弟のご健勝ご活躍と、母校慶応義塾の限らない発展を心から祈念しつつ、ペンを握きます。

ご案内にある通り、来る七月十八日、舟遊びのかたちの定例懇親会を開きます。クラシック、ポピュラー、邦楽、音楽関係諸企業等々、分野を異にした会員相互の懇談、交流を通じて、お互いに情報を受けとり、視野を拡げつつ、そこで仕事がまとまったというケースも少なくない。ぜひとも多くの会員の方々（ご同伴を大歓迎）のご参加、ご出席をお願いいたします。

— 1 —



寺西 春雄



第一回定例懇親会 前例のみ右から村田武雄君、故野村光一君、網代景介君、故三室戸文光君、油井正一君、寺西春雄君

『音楽三田会』十年の歩み

磯野 晃雄

(昭和二十八年政卒)

慶応義塾の百二十五周年を期して「音楽三田会」が誕生したのは一九八三年二月十二日であった。まことにゆるやかな会則を持ち、年に二回の懇親会を楽しむこの集団は、ついに十年の節目をむかえた。まさに塾に学び、音楽を職とする各界各層の和やかな親睦と交流は外から見て羨望の的と言っても過言ではない。

昭和初期に生れた「芸文三田会」が短命であった轍をふむことなく、永続と意義ある会にするよう努力された会員諸兄姉と、発足以来、運営に尽力された同志に心からの感謝をささげたい。この十年間で三回の会報が発行された。会の付則に会報並びに会員の名簿を発行するとあるが定期的とはうたっていない。しかし新入会員のためほとんど毎年のよう



磯野 晃雄

に名簿は改定されている。

会報は初代会長の野村光一と石川忠雄塾長の寄稿の榮に浴した第一号が会の設立をリポートしている。第三号では寺西春雄代表世話人による四年間の総轄と大橋節夫君の音楽談が掲載されている。以来六年間会報が出ていないので、このたび久しぶりに出すことになったものである。

しかし定例懇親総会は十年にわたってつゞがなく開かれてきた。毎年一月の三田倶楽部における会合は新年を祝うと共に会員の慶事(叙勲や受賞など)を会員が皆でことごとくいう会が多かった。

野村会長の米寿を祝ったり、会社社長に就任された会員を激励したりという会があつて、楽しく有意義であつた。その間、野村会長が逝去されたので、作曲家で日本女子管弦楽団代表の服部正君が会員全員の推挙によって二代目会長に就任された母校のマンドリンクラブの総帥として人気高い会長への期待は大きい。

一方、七月の夏の会は一九八六年から船遊びの形式を取っている。発足時に村田武雄君と共に監事になつ

音楽三田会 事業報告

昭和五十八年二月十二日

創立総会(東京三田倶楽部 三信ビル地下)

同年 七月十六日

第一回定例懇親会(東京三田倶楽部 帝国ホテル本館地下)

同年 十一月七日

十一月例会 松尾修吾君CBSソニー社長就任、井上義勝君エピックソニー社長就任 祝賀激励会

昭和五十九年一月二十一日

第二回定例懇親会 音楽三田会会長野村光一君米寿祝賀会

同年 七月十四日

第三回定例懇親会 服部正君勲四等旭日小綬章・吉村伊三蔵君勲五等瑞宝章、両君叙勲、鈴木啓介君サントリ音楽賞受賞、祝賀会

昭和六十年一月二十六日

第四回定例懇親会(以下場所名なきものは、帝国ホテル本館地下東京三田倶楽部)

同年 七月二十日

第五回定例懇親会

昭和六十一年二月八日

第六回定例懇親会 ハワイ桜祭にハワイ観光局より招聘された大橋節夫君を迎えて、音楽苦勞話を聞く会

同年 七月十二日

第七回定例懇親会 「隅田川屋形船での川遊び」浅草吾妻橋 船宿「あみ清」からの船出

昭和六十二年一月二十四日

第八回定例懇親会 吉田雅夫勲三等旭日中綬章叙勲祝賀会

同年 七月十一日

第九回定例懇親会 「隅田川屋形船での川遊び」浅草吾妻橋 船宿「あみ清」からの船出

同年 十一月二日

十一月例会 望月和夫君日本コロンビア社長、佐藤修君B.M.G.ビクター社長就任祝賀激励会

昭和六十三年一月二十三日

第十回定例懇親会 中村富士郎君芸術院賞受賞、笈田敏夫君芸術院章受賞祝賀会

同年 七月十六日

第十一回定例懇親会 「隅田川屋形船での川

たジャズ界の大御所油井正一君が提案され、夏は河上のイキな屋形船例会というのが定着した。八六年から八八年まで浅草吾妻橋からの隅田川、八九年から九一年までは品川発と三年ずつ続いたが、今年は深川へと趣向をかえる。しかし大形の貸切船で音楽談議をサカナに酒を酌みかわすこの会は多くの会員が心待ちしているイベントに成長した。思わぬ有名人と会ったり、予期せぬゲストの参加は実に楽しいものだ。

運営にあたる世話人は会の進展と共に幹事と名称をかえた。従って代表幹事が寺西君であることに変化はない。事務局は誕生以前から運営の中心をなす小尾旭君、会報の担当は大山英治君、筆者は会合の司会を担当させて頂いている。

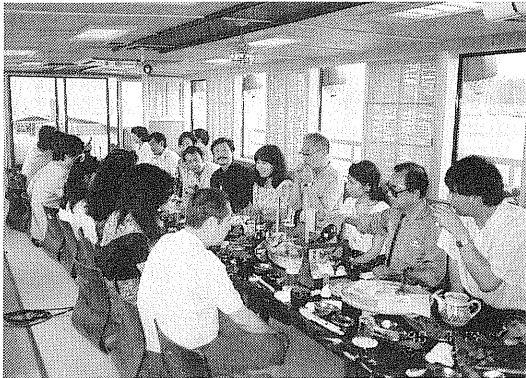
会の円滑な運営のため毎月第一月曜日に、幹事を中心に会員自由参加の月例会を持つているが、これは三田倶楽部の会員である大野洋君などが常にならんでいる。

この間、会員の有志の結びつきによって多くの音楽会やイベントが行われたことはまことに喜ばしい。第三号の記録によると会報は大山君以下姫野翠君、清水久嗣君が担当となつていますが、拙稿は大山君からの依頼によって執筆したものである。

会計担当の高橋勇君の退会により今回は岩尾純一君が会計監査と報告

をされる。それにしても発足以来年会費を徴集せず、入金と例会実費だけで運営してきた経理も大分赤字が累積したと思うが、ボランティアで事務局と事務員(天野恵子君)を提供された小尾君の献身には頭が下がるばかりだ。

この会にいたおかげで久保田万太郎講座の「現代芸術」の非常勤講師として母校三田山上でジャズ史を講義できた光栄は筆舌につくせない。これからも発足時の初心忘れず、常にこの会の発展と会員増強に微力をつくしたいと思つている。



平成元年七月一五日第一三回定例懇親会「東京湾・隅田川屋形船での夕涼み」

音楽三田会・会計報告 1982(創立)～1992年3月
〔会計監査1989年3月迄高橋勇、1992年3月迄岩尾純一〕

収入の部		
入金	224名	1,120,000
雑収入		7,200
懇親総会参加者会費 (19回分)		4,265,000
銀行利息		14,790
	合計	5,406,990
支出の部		
懇親総会宴会費		4,024,580
印刷費		1,132,012
会報3回、名簿4回、		
懇親総会案内等		
郵送費		
懇親総会、名簿、会報等		777,115
	合計	5,933,707
収支		△526,717

平成元年	一月二十一日
同年	七月十五日
平成二年	一月二十七日
同年	七月十四日
平成三年	一月二十六日
同年	七月二十六日
平成四年	一月二十五日

遊び「浅草吾妻橋 船宿「あみ清」からの船出
第十二回定例懇親会 藤崎三郎助君勲三等瑞宝章叙勲、大橋節夫君芸術祭賞受賞、樋口隆一君第三回京都音楽賞受賞 祝賀会
第十三回定例懇親会「東京湾・隅田川屋形船での夕涼み」北品川船宿「平井」からの船出
第十四回定例懇親会
第十五回定例懇親会「東京湾・隅田川屋形船での夕涼み」北品川船宿「平井」
第十六回定例懇親会
第十七回定例懇親会「東京湾・隅田川屋形船での夕涼み」北品川船宿「平井」
第十八回定例懇親会

音楽三田会の皆様へ

一九九二年六月二十五日
事務局担当幹事 小尾 旭
会報IVにあります通り、音楽三田
会十年の活動は、現在金五二六、七
一七の不足状況です。

皆様の入金金五〇〇〇〇は名簿・
会報の発行と年二回の懇親総会ご案
内費に消失いたしました。

幹事会で再三にわたり討議いたし
ました結果、会員の皆様に各自、金
一〇、〇〇〇也追加会費をいただき、
この財政状況を正常化したすことと
なりました。事情ご賢察のうえ宜し
くご協力のほどお願い申し上げます。

富士銀行新橋支店

口座名 音楽三田会

(東京都港区西新橋一ノ一〇ノ八)

口座番号 普通No.九八六一七四番

Tel〇三(三五〇一)五六三八

「毎月一回会合しています」

毎月第一月曜日夜七時から、帝国
ホテル本館地下一階の東京三田倶楽
部にて、月例の幹事打合せ会を行っ
ております。音楽三田会会員は、ど
なたでも出席ご自由です。

「会員の動静をお伝えします」

会員のあらゆる動静をこの掲示板
でお伝えいたします。会員が催す演
奏会なり出版なり、宣伝なさりたい

ことを遠慮なく、どしどしご投稿く
ださい。

また音楽三田会会報では「会員の
声」欄を設けております。自由な内
容で四百字以内。ふるって投書して
ください。

「総会についてのご意見を」

音楽三田会を息長く、盛大で楽し
いものにしてゆくために、会のあり
方、とくに定例懇親会でのアトラク
ションなどに、ご意見や、アイディ
アがありましたら、ぜひ幹事にお聞
かせくださいますよう、お願いいた
します。

「音楽三田会」会則

- 一、本会は「音楽三田会」と称し、会員相互の親睦と交流を目的とする。
二、本会は、慶応義塾に学び、音楽を職業とするものをもって会員とする。
三、定例懇親会は原則として年二回(一月、七月)開催する。
四、本会は、会長一名、幹事若干名、監事二名、必要に応じ副会長数名を置くものとする。
五、会員は入会の際に入会金(二万円)を納入し、また会合の都度、出席者は参加費を支払うものとする。
付則 一、会報並びに会員の名簿を発行する。

音楽三田会役員

Table with 4 columns: Position (e.g., 会長, 監事, 代表幹事, 幹事), Name, and Name. Lists members like 山博, 三善, 峰岸, etc.

編集後記

音楽三田会会報第四号をお届けいたします。今回ご寄稿くださいました方々に心から御礼申し上げます。編集に関するご意見がございましたら、ぜひおっしゃってください。

